

森と海の自然科 総会オリエンテーション2015

起案 児玉

総会期日、場所 2015/4/2 中池見湿原会議室

議事項目 (司会児玉)

1. 27年度森と海の自然科参加メンバーについて (浅野)
名簿の配布
2. 幹事役員の選出 (児玉進行)
代表幹事
副代表幹事
会計幹事
監査役
企画委員長
3. 27年度予算(案)について (児玉進行)
27年度予算案(参加メンバー18名)
27年度予算明細書
活動費352千円(31千円/人 x 18 x 63%)
参考資料: 調査研究部各部27年度予算概略
4. 年間活動体制(案)についての討議と承認 (浅野進行)
企画立案と運営体制について
26年度までの実績と27年度計画概略
海 G 児玉 川里 G 浅野 源流 G 柰三
イベント推進 (暫定児玉進行)
5. トピックス
年間活動のあらまし (デジブック上映) (坂根)
ニューカレドニア紀行 (デジブック上映) (坂根)
海の講座計画 (児玉)
研修旅行 (夏季) (柰三)
6. その他
下見費用の請求ルールと繰越経費の概略 (会計幹事)
イベント参加へのお願い (児玉)
質疑応答

以上

2015年度運営体制(2015.4.2作成)						
	新役員	(旧役員)			(サポート)	
幹事	総会で 選出	杵三	(児玉)			
副幹事		浅野	(浅野)			
会計		前野	(前野)			
会計監査		中束	(中束)			
顧問		児玉				

活動運営体制						
企画委員長	浅野					
企画委員	杵三	万井	金戸			
イベント(社会貢献)担当	坂根	前野	日景	前窪	畠中	(児玉)
写真担当	坂根	金戸				
海・海辺の調査活動・海の講座担当	前野	日景	前窪	並木		(児玉)
森・源流探索project担当	杵三	万井	後藤	大石		
里/川・自然と暮らしの関わりproject担当	金戸	坂根	畠中			(浅野)
夏季研修旅行担当	杵三	石原	大石	藤井		
秋季研修旅行担当	金戸	杉谷	並木			
ホームページメンテ担当	万井	坂根				(児玉)
定例活動・企画担当(世話役)	企画担当					(サポート)
2015年 4月～6月	日景	前窪	石原			杵三
7月～9月	金戸	坂根	大石			浅野
10月～12月	中束	長尾	杉谷			万井
1月～3月	畠中	前野	並木			児玉
4月～6月	後藤					杵三

〈参考〉 継続メンバー	浅野誠	児玉利恒	後藤洋子	坂根千歳	金戸千鶴子
	中束稔	長尾信子	畠中利恵	日景富美	前窪美津子
	前野照美	万井静吾	杵三文作		
新メンバー	石原則幸	大石博司	杉谷幸雄	並木良児	藤井良子

「中池見湿地見学会と森海オリエンテーション」(会議録)

日 時 2015年4月2日(木) 15:30～16:30 於) 中池見湿地会議室

出席者 浅野 石原 大石 金戸 児玉 坂根 杉谷 並木 畠中(畠中孫)
日景 藤井 前窪 前野 万井 杢三 (欠席) 後藤 中束 長尾
記録 児玉

1. 森海16名(+畠中孫ちゃん)の出席のもと森海活動総会を開催しました。皆様のご協力深謝致します。主要決定事項下記の通りです。以下確認させていただきます。

尚、当日配布の議事進行表に従い会議推進し、これに従い参加メンバーの希望要請に基づき追加変更等決定しました。どなたのご希望とは記載していませんし、議事進行の様子は省略させていただきますのでご了解ください。

- 1) 新役員人事 代表幹事 杢三 文作(旧幹事推薦により出席者のご賛同を得ました)
副幹事 浅野 誠
会計 前野 照美
監査役 中束 稔
顧問 児玉 利恒(新設役員です)

2) 2015予算案は関係 配布資料(含シニア自然大学校調査研究部他科の予算状況)参照ください

3) 活動運営体制(含実績表外)

旧役員から提案のあった運営体制細則は大筋を承認し、一部追加補足しました。添付2015運営体制表参照ください。当日配布資料より追加変更あった部分を赤字記載しています。

4) トピックス/その他

主要部分は添付資料参照ください。

・夏季研修旅行日程案大筋了解されました。担当メンバーの方よろしく願いいたします。

5) その他 時間的な制限から坂根さんの記録デジブック上映に充分お時間が取れませんでした。次回座学時間割の際再演します、ご了解ください(坂根さん申し訳ありません)

2. 後記

やや強風の春うらら、金ヶ岬の花換え祭り、静かな敦賀気比優勝騒ぎの最中、元気に残っていた気比神宮のユウカリに安心し、案内役が聞いた地元の人のとんちんかな中池見行き近道説明に少し遠回りをしましたが、新加盟のみなさんの元気さに助けられ無事予定通りに中池見に到着(計測では歩行2万歩)。

中池見到着後は、ガイドさんの熱心なお話、無料の会議室/機器利用に救われ、事前調査いただいた企画担当の皆さんのサポートに助けられてつつがなく終了しました。切符の手配、昼食のお世話本当にお世話役の皆さんありがとうございました。今後も杢三さん以下よろしく願いいたします。

(児玉記)

部 門 : 調査研究部

平成27年 3月 25日

事 業 名 : 森と海の自然科

担 当: 児玉利恒

平成27年度 予算案

1 事業計画

- ① 森 淀川その他大阪湾に注ぐ河川上流域、源流の自然環境調査活動
- ② 里／川 河川沿岸の人間活動（歴史）の自然環境の学習と観察活動
- ③ 海 大阪湾等に流れ込む河口部や海浜の環境調査活動
- ④ 社会貢献活動 大阪湾生き物一斉調査活動への継続参加
ストーンアート、紙漉き、ソテツペンダント、海藻押し藻
葉等のイベント出店

2 予算案

収 入 (千円)			事 業 費 (千円)			事務局欄
受 講 料 収 入	352	千円	講 師 謝 金 (講 師 交 通 費 を 含 む)	110	千円	
事 業 収 入		千円	交 通 費		千円	
補 助 金 収 入		千円	会 場 費	20	千円	
そ の 他 収 入		千円	旅 費 交 通 費	141	千円	
* 受講料収入は指定の事業のみ * 参加費は事業収入へ * 聴講料、登録料はその他収入へ * 補助金等は外部団体からの入金のみ			消 耗 品 費	15	千円	
			通 信 費	10	千円	
			印 刷 製 本 費	20	千円	
			そ の 他 経 費 合 計	26	千円	
			雑 費	10	千円	
			予 備 費		千円	
収入合計A	352	千円	事業費合計 B	352	千円	
			事業費比率(B/A%)	100	%	

事業名: 森と海の自然科

NO. 43

予 算 案 明 細

	勘 定 科 目	予 算 額 (千円)	内 容
収入	受講料収入	352	31,000x0.63x18人
	事業収入		
	補助金・助成金収入		補助・助成元
	その他収入		
	収入合計	352	
事業費	講師謝金 (講師交通費含む)	110	貝塚市立自然遊学館山田先生(2回、50千円) 向井先生講座他(6回、60千円)
	交通費		
	会場費	20	自主研修その他
	旅費交通費	141	研修旅行／観察会バスチャーター、下見その他
	消耗品費	15	生き物調査、水質検査その他
	通信費	10	切手代他
	印刷製本費	20	
	その他経費	什器備品費	(6)
		書籍・教材費	(10)
		調査研究費	(10)
		保険料	()
		手数料	()
		借用料	()
		委託費	()
		その他経費合計	26
	雑費	10	
	予備費		
	事業費合計	352	



単価記載



予算案へ

中池見湿地

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 （一部抜粋）



天筒山から臨む。

中池見湿地(なかいけみしっち)は、福井県敦賀市にある、3つの低山に囲まれた面積約25haの内陸低湿地であり、泥炭湿地。分類的にはフェンにあたる。日本の地形レッドデータブックにも保全を要する最も価値のある地域の一つとして記載されている。2012年に越前加賀海岸国定公園の一部として追加指定され、同年7月3日にはラムサール条約に登録された^[1]。国内屈指のトンボの生息地である一方、アメリカザリガニの異常繁殖が問題視されている。

歴史

もともとはスギの巨木が生い茂る湿地だったが、江戸時代の新田開発によりほぼ全域が水田となった。その後の減反政策で休耕田が増えその地を大阪ガスが買収したがほぼ放置状態であった為、現在のような多様なモザイク状の生態系が形作られた。その後2005年に敦賀市に寄付された。環境省は、2001年12月、日本の重要湿地500に選定。2012年5月には、同湿地に水を供給する周辺の山を含めた87haをラムサール条約の新たな登録候補地に指定する方針を決めた^[2]。

湿地の特徴

敦賀断層の西側が沈降したことにより、袋状の埋積谷ができ、そこに湿原が発達した。そのため数十mにも及ぶ泥炭層があり、その地層には、約十万年間の環境変遷史が記録されている。また湿地には特有の植物が群落を作り、そこに様々な水生昆虫が生息している。特にトンボの種類が豊富で、現在70種が確認されている。また近年、新種のテントウムシが発見され、ナカイケミヒメテントウ(学名: *Scymnus nakaikemensis* Sasaji et Kishimoto)^[3]と命名された。動植物の種数は約3000種、このうち絶滅危惧種がデンジソウやメダカなど約120種といわれている。